

いえ * 十 (建築関連の漢字)

(訓読)

宇

<意味>①いえ。大きな屋根で覆ったいえ。また、住居を覆うひさし。また、軒下。転じて、大きな建物 ②大きい屋根のような大空におおわれた世界。すべての空間。「宇宙」「宇内(天下)」 ③空間的なスケール。大きさ。「気宇」 ④天子の統治する世界。「御宇(ギョウ)」

<解字>会意兼形声

于は大きく曲がるさまを示す。宇は「宀(やね) + (音符) 于(ウ)」で、大きくてまるい屋根のこと。

屋 *

<意味>①家にかぶさる屋根。 ②や。家。「家屋」 ③おおい。物に覆い被せる物。[国]や。その職業の家をあらわす言葉。また、商店の名に付ける言葉。

<解字>会意

「覆って垂れた布+至(いきづまり)」で、上から覆い隠して、出入りをとめた意をあらわす。至は室(いきづまりのへや)・室(ふさぐ)と同類の意味を含む。この尸印は尸(シ・しかばね)ではない。覆い隠す屋根、屋根で覆った家のこと。

家 *

<意味>①いえ。」家族。また、その家族が住む住居。「家庭」「成家」 ②いえ。うち。や。人の住む建物。「商家」「酒家」 ③卿大夫(ケイタイ)(貴族の官人)の領地。[対]国(諸侯の領地)。「国家」 ④王朝を建てた王室。「漢家」 ⑤いえす。家を構えて住む。 ⑥専門の学問・技術の流派。また、その流派に属する者 ⑦妻から、夫をさして言う言葉。[対]室 ⑧いえがら。「名家」

① 女性に対する敬称。

[国] (ケ) 一氏族全体。姓氏の下に付けて用いる。「平家」

<解字>会意

「宀(やね) + 豕(ぶた)」で、大切な家畜に屋根を被せたさま。

館

<意味>①やかた。役人や要人たちが入る、周囲に塀をめぐらした建物。転じて、公用の人や食客を泊める家。また、王室の人を住ませる別邸。「公館(官舎)」 ②やど。やどや。「旅館」 ③公用に使う大きな建物。「会館」「商館」「迎賓館」 ④文筆にたずさわる人のいる役所。また、その役所に付ける名称。「弘文館」 ⑤(かす)やかたや役所を設ける。 ⑥(かす)泊まる。また、食客として住み込む。

[国]①やかた。仮に設けた家。また、身分の高い人の邸宅。やしき。 ②やかた。大臣や主君、その夫人などを指す尊敬語。 ③たち。たて。小規模な城。砦

<解字>会意兼形声

官は「宀(やね、いえ) + 阜(フ)の上部(=隊。集団、つみかさね)」の会意文字で、公用人が隊をなしている家をあらわす。のち、官が役人をあらわすことばとなったので、食印を添えて、公用者が食事するやしきをあらわした。館は「食+ (音符) 官」

宮

<意味>①みや。王の住む御殿。 ②いえ。奥深く、幾棟もある建物。大きい屋敷。 ③宮殿や、道教、ラマ教の神殿の名に付ける言葉。 ④宮中に住み貴族に付ける呼び名。 ⑤五音の一つ。古代中国の音楽で、階名をあらわす。七音のドにあたる。 ⑥五刑の一つ。生殖器を除く刑罰。 ⑦星座のこと。「黄道十二宮」 ⑧(単位)中国の天文学で、宇宙空間の角度を表す言葉。一宮は、円周の十二分の一の、一つの円弧の両端の点が円心に向かってなす角度。三十度。

[国]①みや。皇族。また、皇族の呼び名。「宮家」 ②みや。神社。

<解字>会意

「宀(やね) + 二つの口印(くちではなくて、建物のスペース)」で、奥深く、幾棟もの建物があることを示す。

戸 *

＜意味＞①と。家やへやの出入り口。また、出入り口にある片開きの一枚とびら。「門戸」 ②人民の住む家。また、民家を数える言葉。「戸口」 ③家の意から転じて、大人の男の人。

＜解字＞象形

門は二枚扉の門を描いた象形文字。戸は、その左半分をとり、一枚とびらの入り口を描いたもので、勝手に出入りしないように防ぐ扉。

最

＜意味＞①もつとも。程度のもつともはなはだしいことを表す言葉。いちばん。 ②一番優れているもの。一番高度のもの。 ③漢代には役人の仕事ぶりを評価して、最（上の者）と殿（下の者）とに分けた。後の優と劣とにあたる。 ④つまむ。撮（つまむ）に当てた用法。

＜解字＞会意

「おおい＋取」で、被せた覆いを無理におかして、少量をつまみ取ることを示す。撮（ごく少量をつまむ）の原字。もと、極小の意であるが、やがて「少ない」の意を失い、「いちばんひどく」の意を示す副詞となった。

室 *

＜意味＞①へや。奥まったへや。[対]堂（表の広間） ②むろ。奥深くふさいだ穴。 ③いえ。すまい。うち。 ④（単位）家の戸数を数えることば。 ⑤さや。刀剣のさや。「刀室」 ⑥王朝を建てた一家。 ⑦奥部屋に住む夫人。 ⑧二十八宿の一つ。

＜解字＞会意兼形声

至は、矢がびたりと目標まで届いたさま。奥まで行き詰まり、その先へは進めない意を含む。室は「宀（やね、いえ）＋（音符）至」で、いちばん奥の行き詰まりのへや。

舎 *

＜意味＞①やど。いえ。手足を伸ばしてくつろぐいえ。一休みするやど。「宿舎」 ②やどる。やどす。体を伸ばしてくつろぐ。宿をとって休む。いえを構えて住む。 ③おく。すてる。手をゆるめてはなしておく。また、すておく。はなす。 ④ゆるしてはなす。 ⑤持っていた物をはなして人にやる。 ⑥供え物を並べておく。積（せき）に当てた用法。 ⑦

（単位）軍隊の行軍の距離をあらわすことば。一舎は、周代、三十里。約十二キロメートル。 ⑧自分の身内や自分が所有するものを謙遜して言う言葉。自分のうちの、の意味。

＜解字＞会意兼形声

余の原字は、土を伸ばすスコップのさま。舎は「口（ある場所）＋（音符）余」で、手足を伸ばす場所。つまり、休み所や宿舎のこと。

捨

＜意味＞①すてる。手に持った物を放す。不用な物として、放しておく。 ②すてる。考えないで放しておく。あきらめる。 ③（仏）寺や僧に金品を寄付する。「喜捨」「施捨」

＜解字＞会意兼形声

舎（シヤ）は「押しをばすスコップのかたち＋口印（場所）」からなり、のびのびと身体をゆるめて伸ばす休み場所のこと。捨は「手＋（音符）舎」で手の力を抜いて指を伸ばし放すこと。取（手を引き締めて持つ）の反対のことば。

門 *

＜意味＞①かど。やっと出入りできる程度に、通路をおさえて作ったもん。 ②やっと通れる程度の狭い入り口。転じて最初の手引き。 ③みうち。家がら。 ④学派や宗派のなかま。 ⑤事物の分類上の大きなわく。また、生物の分類上の大枠。 ⑥もんを攻める。 ⑦（単位）大砲を数えることば。

＜解字＞象形

左右二枚の扉を設けたもんの姿を描いた象形文字で、やっと出入りできる程度に、狭く閉じているの意を含む。

宿

＜意味＞①やどる。泊まる。からだを縮めて、かりねする。 ②やどる。ねぐらで休む。 ③一夜とどめて置く。 ④ある気持ち・考えなどを久しくとどめ置く。とどまって離れない。その職務にとどまる。 ⑤年を経ている。かねてからの。「宿老」 ⑥やど。泊まる所。 ⑦（仏）前世。前世からの。「宿縁」

①星座。北斗七星を軸として、天空を二十八宿にわける。「二十八宿」 [国]しゆく。街道すじの泊まり場。「宿場」

＜解字＞会意兼形声

宿の原字は四角い物が縮んで、しわのよったさま。また、口印であらわされる布団に、二人の人が縮んで寝るさまと考えてもよい。宿

はそれに人と㇀(やね)を加えたもので、狭い所に縮んで泊まる意味を含む。また、伸(のびる)や信(のびる)の反対で、進行や発散をやめるとまるの意に転じて用いる。

塾

<意味>①門の両側に土を固め、ついじを作ってこしらえたへや。「門塾」②個人教授をするところ。また、小規模な学びや。

<解字>会意兼形声

孰(ジュク)の左は、城門の南北相對するさまで、城壁やついじの塀を示す。右は両手工事するさま。ゆえに孰とは粘土をつみ固めてついじをつくることを示し、とんとん土をつき固める意を含む。「築」と同系。塾は「土+(音符)孰」で、土でつくったついじのへいや、へやをあらわした。

庄

<意味>①いえ。いなかの農家。[同]莊。②むら。農家のあるむら。

①たいらか。高低やでこぼこのないさま。また、土造りの平屋。

<解字>会意

「广(いえ)+土」で、もと土間のある平屋のこと。のち、莊(ソウ)(なや)に当てて用い、いなかの農家をあらわす。

宅

<意味>①すまい。じっと腰を落ち着けて休む所。家。「邸宅」。②すまう。すむ。また、すまわせる。③おく。おる。定着する。また、定着させる。ある場所に落ち着かせる。腰をすえておる。④墓。「陰宅(死者の落ち着く所)」

[国]①たく。他人に対して、妻が自分の夫をいうことば。自宅の意から変化。②たく。他称・対称代名詞として用いられる。

<解字>会意兼形声

下部の字(音タク)は、草が地下にじっと根を定着させたさま。宅はそれを音符とし、㇀(やね)を加えた字で、定着して住むところをあらわす。

長

<意味>①ながい。端から端までの隔たりが大きい。②ながい。時間の隔たりが大きい。また、いつまでも。③たけ。ながさ。根もとからてっぺんまでの隔たり。また、身のた

け。④すぐれている。すぐれた点。

①おさ。かしら。②年長の人。また、年がたけている。年かさの。③親族のうち、年上であること。④年長者と認めて尊ぶ。かしらとする。かしらとなる。⑤たすける。伸びて育つ。ながくなる。⑥まさる。たける。すぐれる。⑦ます。ふやす。

<解字>象形

老人がながい頭髪をなびかせて立つさまを描いたもの。

邸

<意味>①やしき。もと、諸侯が都に来たときに泊まる宿舎。転じて、貴族の屋敷。立派な屋敷。②宿屋。旅館。③とどめる。そこにとまっていさせる。④いたる。そこまでとどく。ふれる。

<解字>会意兼形声

左側の字(音テイ)は、ひくい、下底にとどくの意をふくむ。邸はそれを音符とし、邑を加えた字で、都に定着してとめおく諸侯のやしき。あるいは、低い平屋と解してもよい。

坊

<意味>①まち。方形に区切った街路。転じて、市街地の区画の名。②孝子や節婦を記念するため、街路の入り口に建てた門や建物。「孝坊」③へや。いえ。住居。④ふせぐ。さえぎる。さえぎるもの。防の当てた用法。

<解字>会意兼形声

方は左と右に張り出たすきの柄を描いた象形文字。坊は「土+(音符)方」。もと堤防の防と同じで、両側に張り出した堤や塀。のち、四角く区切った街路の意に用いる。方(四角い)からの派生義である。

房

<意味>①へや。おもやの両側に張り出した小べや。また、転じて広く、へやのこと。②ねや。ねま。夫婦の寝室。[類] 閨(ケイ)③いえ。住居。④大家族の中のわかれた家族。⑤全体の中から小さくわかれたもの。⑥二十八宿の一つ。⑦科挙(官吏登用試験)のさい受験生が一人ずつ入る小べや。

[国]①ふさ。両端、または先の方にぶらりと垂れたもの。②「安房(あわ)」の略。

<解字>会意兼形声

方とは、両側に柄に張り出たすきを描いた象形文字。房は「戸(いえ)+ (音符)方」で、おもやの両側に張り出た小べやのこと。

寮

＜意味＞①ともがら。一緒に方を並べて仕事をする仲間。②つかさ。役人たちが肩を並べて仕事するところ。役所。③あかりとりの窓④同僚や仲間の住む宿舎。

[国]数寄屋造りの家。また、下屋敷。

＜解字＞会意兼形声

寮の下部は、かがり火を燃やして明るいさま。寮はそれを音符とし、宀（いえ）をそえた字で、もと明るく火をともした窓、またはあかりとりの窓の意。また、かがり火が連続して燃えることから、一連に連なる意をも生じ、僚（連なった仲間）にも当てて用いる。

楼

＜意味＞①たかどの。二階以上の高い建物。「楼台」②高くて大きな建造物。「楼船」③建物の二階より上。また、その各階。④やぐら。物見やぐら。「望楼」

＜解字＞会意兼形声

「木＋（音符）婁（楼）（つぎつぎとつながる）」で、一階二階とつながる木造の高い建物。

廈・厦

＜意味＞①いえ。屋根をふいたいえ。[同]家。「大廈（タウ）（大きいいえ）」「広廈万間（コウカマケン）（何間もあるような広いいえ）」

＜解字＞会意兼形声

「广（いえ）＋（音符）夏（上から葉がかぶさるとき）」で、上からおおいをかける意を含む。

廬

＜意味＞①いおり。まるいつぼ型の小屋。転じて、粗末な小さい家。[類]庵（アン）②いえ。農村の質素ないえ。③いおりをつくる。また、いおりをつくって住む。

＜解字＞会意兼形声

廬（ロ）は、まるい筒型のつぼのことで、壺廬（コロ）ともいう。廬（ロ）は「广（いえ）＋（音符）廬」で、まるいつぼ型の小屋。

院

＜意味＞①かき。家のまわりにめぐらした土べい。かこい。[類]垣（エン）②土べいにかこまれた屋敷。かこいのある建物。「書院」。③かこいにかこまれた庭。中庭。

[国]①いん。法皇（ホウウ）・上皇・女院（ニョウイン）の御所。また、法皇・上皇・女院のこと。

②いん。格式の高い戒名に用いることば。

＜解字＞会意兼形声

「阜（土もり）＋（音符）完（まるく欠けめなくとりかこむ）」。まわりをかこんだ土べい。

台・臺

＜意味＞①うてな。高い土台や物を載せる台。また、見晴らしのきく高い台。

＜解字＞会意

臺は「土＋高の略体＋至」で、土を高く積んで人の来るのを見る見晴台をあらわす。のち台で代用する。

塔

＜意味＞①とう。仏骨を納めるために高く築いた層状の建物。三重・五重・七重・十三重などの形式があり、石を重ねた小さな石塔から、中国の大石塔、日本の木造塔に至るまで、各種の様式に発達した。②幅がせまく高さの高い建造物。

＜解字＞形声

「土＋（音符）荅（トウ）」。梵語を音訳するためにつくられた字。

倉

＜意味＞①くら。もと、青い新米や青草をしまいこむ納屋のこと。のち、広く、くらの意。[類]蔵②しまいこむ。③あわてるさま。にわか。④青い。

＜解字＞会意

倉は「食の略体＋口印（入れる所）」で、食糧となる新穀や青草を入れる納屋。転じて、青草の青い色の意となり、蒼（ソウ）（青草の色・滄（ソウ）（青い水）・愴（ソウ）（青ざめる）などのことばを派生する。また、創（さつと急に切る）に通じて、急切な動作、あわてるさまを意味し、乍（サク）（たちまち）と同系のことばをあらわすときにも用いる。

建

<意味>①たてる。しっかりとたてる。また、堂々と定める。 ②意見を申し立てる。 ③しっかりして丈夫であるさま。 ④北斗七星の柄が、ある方向をさす方向。

<解字>会意

聿(イ)は、筆をまっすぐ手でたてたさま。建は「聿(ふで) + 廴(すすむ)」で、からだをまっすぐたてて堂々と歩くこと。

築

<意味>①きづく。まんべんなく土をたたきかためて、土台をきづく。地がためをする。

②きづく。建物や橋脚などをつくる。

<解字>会意兼形声

竹は、まんべんなくとりまいた筒型のたけ。中間の字は「工+両手で棒を持つさま」からなり、工事をすること。築はそれに木と音符竹を加えた字で、木の棒を手に持ち、まんべんなく土をたたきかためて土台工事をすること。築地(ついで)の堀(ハイ)や土台のつくり方である。

象形：物の形をかたどって字形とする方法

会意：漢字を統合し、それらの意味を合わせて書き表す方法

形声：漢字を統合し、一方の発音の記号(音符・諧声譜)、他方を意味範疇の記号(義符・意符)に用いて書き表す方法